

「朱漆鳳凰雲椿沈金硯箱四段重」保存修復報告

上江洲安亨*1 室瀬和美*2 鷲野谷一平*3

I. はじめに

一般財団法人沖縄美ら島財団所蔵「朱漆鳳凰雲椿沈金硯箱四段重」の保存修復処置は、平成25年4月18日から平成26年3月24日まで、目白漆芸文化財研究所内の修復施設に於いて行われた。以下は修復内容を記録したものである。

なお、監督職員を上江洲安亨とし、修復責任者を室瀬和美、修復担当者を鷲野谷一平とした。

II. 名称

朱漆鳳凰雲椿沈金硯箱四段重 1合

III. 概要

方形、四段重ね、置蓋造の硯箱。2段目と3段目は中央で二等分し、長方形の箱を並べた形をとり、全部で6箱とする。6箱それぞれに下水板と硯が納まる。4段目は四角に刳形脚を打つ。蓋表は、中央の二重界線内側の地文を麻の葉文とし、瑞雲と鳳凰を表す。外側は草花を隙間無く施す。各段の側面は上部に二重線を廻らし、その下に草花を表す。内側と外側を朱漆塗り、底裏を黒漆塗りとする。縁は金箔を押し、上に透漆を掛けている。

法量：縦25.2 横25.2 高11.3 (cm)

IV. 現状

塗膜表面は経年により付着した埃汚れのため、塗膜本来の艶を失っている。硯箱内側の入隅や脚の接合部分には、木地の収縮および歪みが原因で生じたと思われる亀裂が見られる。上から1、2、3段目の側面は、塗膜全体に断文が深く入り剥離・剥落が目立ち、大変危険な状態である。縁周りには使用による塗膜欠損や塗膜剥離が見られる。蓋および4段目の塗りと加飾は、塗膜の状態と沈金の彫りの様子から後補の可能性はある。

V. 修復方針

現在、我が国で行われている指定文化財漆工芸品の保存修復に則り、現状保存修復を原則として行うこととする。修復に際しては、十分に事前調査を行い、傷みの現状を確認した上で修復工程を決定する。また、写真撮影を伴った修復の記録を取り、修復後と比較できるようにし、修復終了後に報告書を作成し提出する。

*1 一般財団法人沖縄美ら島財団 首里城公園管理部 事業課長補佐兼営業係長

*2 目白漆芸文化財研究所 代表取締役

*3 目白漆芸文化財研究所 修復技術者

VI. 修復作業

<修復前撮影と調査>

修復前に、修復後との比較ができるよう写真撮影を行った。また、素地、下地、加飾および現状の傷みを調査記録し、修復作業工程を確認した。

<クリーニング>

始めに毛棒で全体の埃を払い、水を僅かに含ませた柔らかい木綿布および綿棒で、経年により固化した塗膜汚れを少しずつ丁寧に取り除いた。一部取りきれない部分は、水とエタノールを混合した溶液を使用した。また硯箱の側面は、全面に断文が入り塗膜の剥離が著しいため、通常の手順と異なり、塗膜の押さえを行った後にクリーニングを施した。



<塗膜押さえ>

箱は、経年により木地に歪みが生じており1回の押さえで広域の塗膜を押さえるのは困難であった。そこで木地に負荷が掛からない極狭い範囲で、安全に塗膜押さえを行った。朱漆塗膜の接着には膠を用い、クランプで圧着し安定させた。また底裏の剥離した黒漆塗膜は、溶剤で希釈した麦漆を含浸し、溶剤が揮発するのを待った後に余分な麦漆を拭き取り、木杵と竹ひごの弾力を利用した心張り法により圧着し安定させた。



<木地構造接着>

箱の内側の入り隅部分および脚の接合部分は、経年による木地の収縮と歪みが原因と思われる亀裂が入っている。そこで亀裂部分に溶剤で希釈した麦漆を含浸し、木地と下地の強化を図った。乾固後、更に麦漆を含浸し、木地構造の接着を行った。



<亀裂接着>

木地構造を安定させた後、その他の細かな亀裂の接着を行った。溶剤で希釈した麦漆を含浸し、溶剤が揮発するのを待った後に余分な麦漆を拭き取り、クランプで圧着し安定させた。



<刻苧充填>

亀裂の隙間や欠損部は、麦漆に麻の繊維や木粉を混ぜた刻苧の充填を行った。刻苧の充填は、亀裂の深さや幅に応じて木粉の粗さを徐々に細かくしながら、数回に分けて行った。乾固後、刻苧面を砥石で整えた。



<下地付け>

刻苧を充填した部分の表面や塗膜の欠損部分には、生正味漆に水練りした地の粉を混ぜた下地を施した。乾固後、下地表面を砥石で整えた。



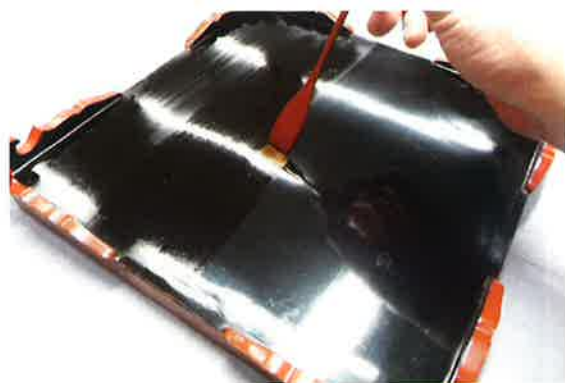
<際錆>

接着安定させた塗膜部分や下地付けを行った亀裂部分の塗膜の際に、生正味漆に水練りした微細な地の粉を混ぜた錆漆を充填した。その作業を際錆と称し、触手による塗膜の剥落防止とした。



<漆固め>

底裏の黒漆塗膜の強化と艶を取り戻す目的として、漆固めを行った。漆固めは、溶剤で希釈した生正味漆を毛の柔らかな蒔絵用地塗り刷毛で塗布し、その後完全に拭き取り乾固させた。



<修復後撮影と報告書作成>

修復後の写真撮影を行い、修復記録をまとめ、報告書を作成した。

※掲載写真は全写真から一部抜粋したもの

修復前



修復後



修復前



修復後



修復前



修復後



修復前 (蓋)



修復後 (蓋)



修復前 (全体)



修復後 (全体)



VII. 修復工程

- ①修復前撮影・記録 ②クリーニング ③塗膜押さえ ④木地構造接着 ⑤亀裂接着
⑥刻苧充填 ⑦下地付け ⑧際錆 ⑨漆固め ⑩修復後撮影・報告書作成